

教 師 ノ ー ト

日付	2019年12月15日
単元	クリスマス
テーマ	従順
タイトル	恐れを乗り越えたヨセフ
テキスト	マタイ1:18-25
参照箇所	イザヤ7:14
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ1:20
AG 日曜学校教案参照箇所	中1巻1題13課
□導入	結婚をする前、婚約中の男の人と女の人って、ラブラブな雰囲気があります。またクリスマスが近づいてきましたが、クリスマスって楽しくてにぎやかなイメージがあるよね。でもね、世界で最初のクリスマスを迎える前に、もうすぐ結婚するヨセフの心には、心配ごとや不安なことがありました。どんなことが起ったのでしょうか？
□ポイント1 ヨセフは結婚をとりやめようとした(18-19節)	ヨセフとマリヤは婚約中で、やがて結婚をするということが決まっていた。しかしヨセフと結婚をする前に、マリヤに赤ちゃんがみごもっていることが分かったのです。ヨセフはどうしてマリヤが身ごもったのか分かりませんでした。ヨセフはマリヤを当時の律法にしたがって訴えることができたのですが(申命記22:22-24によると死刑)、そうはしませんでした。ヨセフはマリヤがみんなのさらし者にならないように、密かに結婚をやめようと思ったのです。
	例)人生には「3つの坂」があると言われています。1つは何でも順調にしているというような「登り坂」、2つ目は失敗をしたりうまくいかなかったりというような「下り坂」があります。もう1つの坂は、「まさか！」という坂だそう。自分が失敗したり間違っただけでもないのに、「まさかこんなことになるなんて」と思わずにはおれない「まさか」です。ヨセフは、マリヤと結婚することを楽しみにしながら登り坂をラブラブな気持ちで登っている気持ちだったと思います。しかしヨセフが何か間違いをおかしたわけでもなく、「まさかマリヤに誰の子どもか分からない赤ちゃんが・・・」そんな気持ちだったのでしょう。
□ポイント2 ヨセフに主の使いがあらわれました(20-23節)	「まさか自分にこんなことがおこるなんて・・・」悩んで恐れているヨセフに、主の使いが夢に現れました。そして主の使いは、「ダビデの子ヨセフ、恐れなくてマリヤを妻として迎えなさい。マリヤのお腹の中にいる子どもは、聖霊なる神さまによって宿っているのです。マリヤが産む男の子をイエスと名付けなさい。この方こそ全ての人を罪から救う救い主です」と言いました。恐れて悩んでいたヨセフを主の使いは励ましたのです。
	⇒「まさかこんなことがおこるなんて・・・」、自分の理解を越えたことが起こり恐れてしまって、どうしたら良いのか分からなくなってしまうことがあります。そんな時、ヨセフは主の使いによって励まされました。私たちの神さまは、恐れて悩んでいる私たちを励まして下さる神さまです。ある人は聖書の中に「恐れるな」という言葉が365回出てくると言っていました。つまり私たちは毎日毎日「恐れるな」という神さまの励ましの声を聞き続けていく必要があります。聖書に出てくる人物も何度も何度も「恐れるな」と励まされています。イエスさまも「恐れるな」と弟子たちに言われています。

悩んだり心配することもあるでしょう。「あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる」(詩篇55:22)と聖書に書かれています。心配は私たちがすることではなく、神さまがしてくださることです。神さまが心配して下さるから大丈夫という信仰を持ちましょう。聖書の中に「恐れるな」「思い煩うな」「心配するな」という言葉に注意しながら読んでみると、それだけ神さまが私たちに励まそうとして下さっているのかがよく分かります。

例)19世紀、イギリスにジョージ・ムーラーというすばらしいクリスチャンがいました。彼は親を失い、家族から見捨てられた数千人の孤児達を、分け隔てなく受け入れ、彼らを心から愛し、彼らの父となって養い育てました。何度も何度も子どもたちに食べさせるものがないという事態に遭遇しました。周りの人たちは心配してどうしたらいいだろうかとあたふたしていましたが、その度にムーラーは神さまにお祈りをしました。すると神さまは何度も何度も不思議な方法で子どもたちの食べる物を与えて下さったのです。食事の5分前になっても何も食べる物がない時もありましたが、馬車が食べ物を積んでやってきて助かったこともありました。ムーラーは、「信仰が大きくなれば心配は小さくなり、信仰が小さくなれば心配は大きくなる」と言いました。

□ポイント3 ヨセフはマリヤを妻に迎えました(24-25)

ヨセフは主の使いが言われたことを単なる夢だと思わずに、神さまからの励ましの言葉だと信じてマリヤを妻として迎えました。そして生まれてきた子どもの名前を主の使いが言った通りにイエスと名づけました。

⇒毎週の教会でのお話し、聖書を読んでいて心にとまった言葉を、右の耳から左の耳に流してしまうことなく、神さまからの励ましの言葉だと信じてその通りに実践していくことが大切です。周りの人の目になることもあるでしょう。疑いがわいてくるかもしれません。人の言葉や疑いばかりを気にしていたら、私たちの心の中にある恐れはいよいよ大きくなっていきます。恐れを乗り越えるために、神さまの言葉を信じていくことが大切です。神さまの言葉には大きな力があります！

⇒今まで教師自身が聖書の言葉で励まされた体験を語っても良いでしょう。あるいは子どもたちに聖書の言葉で励まされた体験があるかどうかを聞いてみるのも良いでしょう。

□結論 恐れて心配していたヨセフは、主の使いの語る神さまの言葉を信じて従いました。

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

もうすぐにぎやかなクリスマスなのに、悩んだり心配したり恐れていることはありませんか？

(1) 私たちが恐れて心配していることに対して、神さまはどう思っているのでしょうか？聖書はどう教えているのでしょうか？神さまに祈って教えてもらいましょう。(分からないときは、先生にたずねてみてね)

(2) そして神さまの言葉に従っていく決心をしましょう。(聖霊なる神さまは、従う力を与えてくれます)